

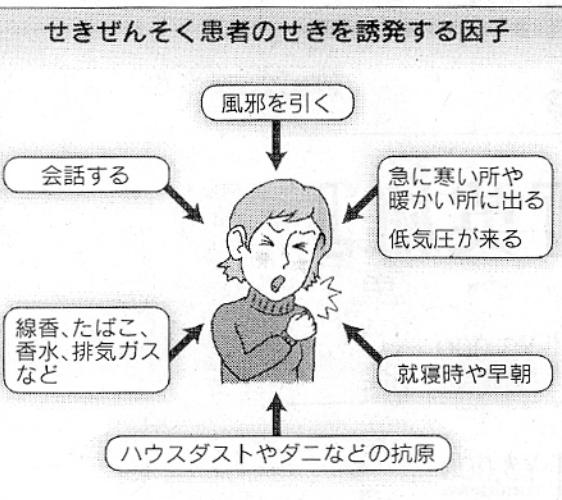
健

風邪が治つて何週間もたつのに、なぜか、せきだけがなかなか治らない——。そんな人は「せきぜんそく」を疑ったほうがよいかかもしれない。時には厄介な気管支ぜんそくになることもある、早めに治療をしたい。

都内在住の会社員Aさんは、昨年十一月に風邪をひいた。のどの痛みや熱はすぐになくなつたが、せきだけが取れない。むしろ日増しにひどくなつていき、せきの勢いで吐いてしまうようになった。いったんせきが出だすと止まらず、明け方に何度も目を覚ます。ひどい寝不足になって、一月初めにクリニックに駆け込んだ。

診断は「せきぜんそくの疑い」。吸入薬などぜんそくの治療を受けたところ、二カ月近く続いたせきが一週間で軽減。三週間でひとりと治まった。

治療した中田クリニック（東京・千代田）の呼吸器専門医、中田紘一郎院長は「風邪は普通、一日もすれば治つていく。空せきが何週間も続くなら、せきぜんそくの可能性がある」と話す。



風邪治ったのに…ゴホゴホ せきぜんそく 早めに治療

治療した中田クリニック（東京・千代田）の呼吸器専門医、中田紘一郎院長は「風邪は普通、三三四週間時には数か月も続く。就寝時や明け時に発症するケースが多い。風邪が治つた後も、たんがまったく出ないか、黄色くない透明な痰しか出ない空せきが何週間も続くのなら、せきぜんそくの可能性がある」と話す。

気管支ぜんそく 移行のリスクも

など、アレルギー検査によって、せきを引き起こす抗原がわかつたら、寝具などにていねいに掃除機をかけると症状が改善する。呼吸時に「ヒューヒュー」という音がしたり息苦しくなつたりしない点が、気管支ぜんそくと違う。ただ、せきぜんそく方にひびくなることが多い。会話や急な気温の変化、線香やたばこなどをきっかけにせき込んでしまった。感染症ではないので、人にはうつらない。昭和大学の足立満教授は「早期にステロイド吸入を開始すれば、気管支ぜんそくになるリスクを減らすことができる」と説明する。

治療を開始すれば数週間でせきがおさまり、薬もやめられる。ただ、風邪や季節の変わり目をきっかけに再発することも多い。あまり頻繁に再発を繰り返すような場合は、吸入の継続で発症を抑えることは可能。ステロイドには「副作用が怖い」というイメージがあるが、せきぜんそくが認識されるようになつたのは、比較的最近だ。どの医師でも病気を熟知しているわけではない。「せきぜんそくかも……」と思うたら、呼吸器やアレルギーの専門医に診てもらうのがよいだろう。各地域の専門医は、日本呼吸器学会や日本アレルギー学会のホームページで調べることができる。

まう。感染症ではないので、人にはうつらない。昭和大学の足立満教授は「早期にステロイド吸入を開始すれば、気管支ぜんそくになるリスクを減らすことができる」と説明する。

ステロイド吸入

患者の一・二割が一、二年で気管支ぜんそくに移行するとみられている。足立教授自身もせきぜんそくの患者だ。学会の司会をしている最中にせきが止まらなくなり、往生した経験から「今は普段から毎晩ステロイドを吸入して症状を抑えていきます」という。せきぜんそくが認識されるようになつたのが、比較的最近だ。どの医師でも病気を熟知しているわけはない。「せきぜんそくかも……」と思うたら、呼吸器やアレルギーの専門医に診てもらうのがよいだろう。各地域の専門医は、日本呼吸器学会や日本アレルギー学会のホームページで調べることができる。

専門医の診察を